




Close-up Universe: Contemporary Japanese Photography vol. 16

日本の新進作家 vol. 16

至近距離の宇宙

2019年11月30日(土)→2020年1月26日(日)

東京都写真美術館 2階展示室 (恵比寿ガーデンプレイス内)

主催 = 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 東京新聞 助成 = 芸術文化振興基金  協賛 = 凸版印刷株式会社

開館時間 = 10:00-18:00 (木・金は20:00まで。1月2日(木)と3日(金)は10:00-18:00開館) ※入館は閉館の30分前まで

休館日 = 毎週月曜日 (ただし、1月13日(月・祝)は開館、1月14日(火)は休館。年末年始12月29日(日)から1月1日(水・祝)は休館)

観覧料 = 一般 700(560)円 / 学生 600(480)円 / 中高生・65歳以上 500(400)円

※()は20名以上の団体料金 ※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

※第3水曜日は65歳以上無料 / 1月2日(木)と3日(金)は無料 ※開館記念日のため1月21日(火)は無料 ※各種割引の併用はできません

文化でつながる。未来をつなげる。
TokyoTokyo
FESTIVAL

TOP MUSEUM

「日本の新進作家」は、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場として2002年より開催しています。第16回目となる2019年度のテーマは「至近距離の宇宙」です。

一般的に世の中では、家を出ないこと、遠くに行かないこと、広い世界を見ようとしないことは否定的に受けとられ、様々な国々へ出かける活動的なことは肯定的にとらえられる傾向にあります。その一方、近年では、インターネットで世界の隅々の風景を見ることができ、世界中のものを出かけることなく手に入れることができるほか、VRやホームシアターなどによって家にいながらリアルな臨場感や没入感を持って映像体験ができるなど、どこかに行かずとも何でもできることを、グローバル化とともに人々は積極的に受容しています。本展では、はるか遠い世界に行くのではなく、ごく身近な身の回りに深遠な宇宙を見だし作品を制作する6名の作家をご紹介します。

相川勝 Aikawa Masaru

1978年、ベルギー共和国生まれ。2004年多摩美術大学美術学部情報デザイン学科メディア芸術コース卒業。主な展覧会に「六本木クロッシング2010：芸術は可能か?」展(森美術館2010年)、「Art Meets02 大西伸明・相川勝」展(アーツ前橋、2015年)等。2009年に自身の思い入れのあるCDのパッケージから内容までを絵筆と声により複写した作品(CDs)を発表し注目を集める。近年は、プロジェクターを使用した撮影手法を用い、実在と架空のイメージとその境界をテーマにした作品を発表している。

濱田祐史 Hamada Yuji

1979年、大阪府生まれ。2003年日本大学芸術学部写真学科卒業。主な個展「Photograph」(Primal Mountain)(Galerie f5.6、ミュンヘン、ドイツ2016年)、「RGB」(PGI 2018年)等。グループ展に「The Sun Placed in the Abyss」(コロンバス美術館2016年)等。写真の原理に基づき概念を構築し、ユニークな技法で常に新しい試みを行う。近年では写真における色の三部作(C/M/Y) (RGB) (K) を制作し発表している。

井上佐由紀 Inoue Sayuki

1974年、福岡県生まれ。1997年九州産業大学芸術学部写真学科卒業。主な個展に「私は初めてみた光を覚えていない」(napギャラリー、2018年)等。サンフランシスコ近代美術館に作品が収蔵されている。波をとらえた「Intentionless Creature」、間欠泉を撮影した「over and over」、赤子が生まれて目を開いた瞬間を撮影した「私は初めてみた光を覚えていない」など、「恐れ、畏れ、怖れ」をテーマに独特のタッチでとらえたシリーズを発表。

藤安淳 Fujiyasu Jun

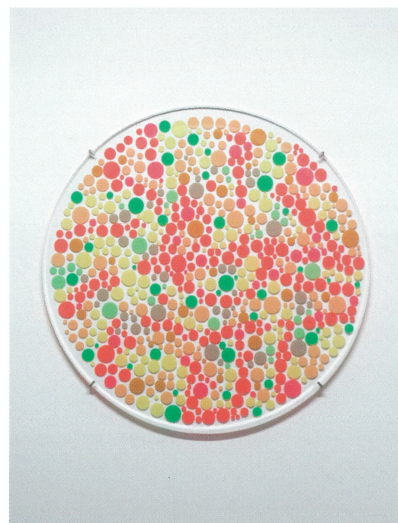
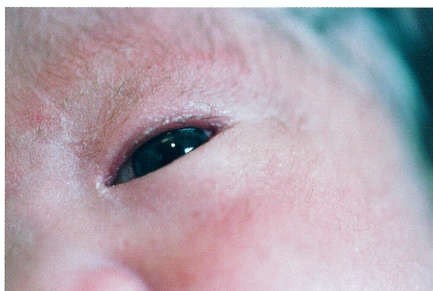
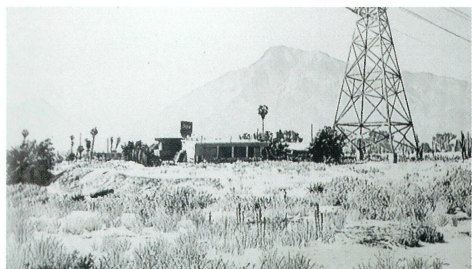
1981年、東京都生まれ。2007年、写真表現大学修了。2008年「第1回塩竈フォトフェスティバル写真賞」大賞受賞。2014年「in」(between. ShaShin Book Award 2014)優秀賞受賞。主な個展に「empathize」(The Third Gallery Aya、2012-17年)、「KG+ SELECT 12 Artists『Sense of Wonder』」(元淳風小学校、2019年)等。自身が双子としてこの世に生を受けたことで向き合わざるを得ないいくつかの問いを基に、アイデンティティや人間の存在の本質、そして写真における様々な要素について考察しながら撮影、制作する。

齋藤陽道 Saito Harumichi

1983年、東京都生まれ。都立石神井ろう学校卒業。「キヤノン写真新世紀」にて2009年佳作、2010年優秀賞受賞。2014年「日本写真家協会賞」新人賞受賞。主な個展に、「宝箱」(ワタリウム美術館2014年)等。主な写真集に2011年「感動」(赤々舎)、2014年「宝箱」(びあ)、そのほかエッセイなど多数出版。あらゆる種別や境界を超えて、身近な人々を被写体とし、真っ直ぐに対象と向き合い撮影した写真を特徴とする。

八木良太 Yagi Ryota

1980年、愛媛県生まれ。京都造形芸術大学芸術学部空間演出デザイン学科卒業。2015年「六甲ミーツ・アート大賞」グランプリ受賞、2017年「京都府文化賞」奨励賞受賞。主な個展に、「サイエンス/フィクション」(神奈川県民ホールギャラリー、2014年)、「MUSIC FOR LAZY SUSAN」(無人島プロダクション、2018年)等多数。見たいものしか見ない・聞きたいことしか聞かないといった、我々の制限的な知覚システムあるいは態度に対する批判的思考をベースに、既製品を用いて作品を構成し、その現れによって人間の知覚やそれを利用した工学的システムを浮かび上がらせるような作品を制作する。



1. 相川勝 (landscape)より 2019年 2. 井上佐由紀 (私は初めてみた光を覚えていない)より 2014年
3. 濱田祐史 (Primal Mountain)より 2011年 4. 藤安淳 (empathize)より 2011年 5. 八木良太 (On the Retina) 2016年

◎作家とゲストによる対談

2019年12月20日(金) 18:00~19:30 **B**
濱田祐史 × 増田玲 (東京国立近代美術館主任研究員)

2019年12月21日(土) 15:00~16:30 **A**
齋藤陽道 × イ・ラン (シンガー・ソングライター、作家)
* 手話通訳付き

2020年1月12日(日) 15:00~16:30 **B**
藤安淳 × 竹内万里子 (批評家)

2020年1月13日(月・祝) 15:00~16:30 **B**
井上佐由紀 × 穂村弘 (歌人)

2020年1月18日(土) 15:00~16:30 **B**
相川勝 × 中尾拓哉 (美術評論家)

2020年1月25日(土) 15:00~16:30 **B**
八木良太 × 日下部一司 (美術家)

会場: **A** 東京都写真美術館1階スタジオ、**B** 2Fロビー
定員: 各回50名
* 当日10時より1階受付にて整理券を配布します。
番号順入場、自由席。

◎展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

以下の時間に担当学芸員によるギャラリートークを行います。
本展チケット(当日消印)をご持参のうえ、2階展示室入口にお集まりください。
2019年12月13日(金)、27日(金)、2020年1月4日(土)、5日(日)、
10日(金)、24日(金) 14:00より
2020年1月17日(金) 18:00より

◎手話通訳つきギャラリートーク

上記のギャラリートークのうち、下記の日程は手話通訳つきで行います。
日時: 2019年12月27日(金)、2020年1月10日(金)、17日(金)
本展チケット(当日消印)をご持参のうえ、2階展示室入口にお集まりください。

◎託児サービス

子育て中のお客様に展覧会をゆっくりお楽しみいただけるように、下記の日程で託児サービスを実施します。
日時: 2019年12月13日(金)、2020年1月10日(金) 13:00-16:00
利用料金: お子様1名様につき 0~1歳 2,200円、2~6歳 1,100円(税込)
定員: 各日8名程度(お子様の年齢により) 事前申込制、先着順。
申込方法: 株式会社マザーズ TEL 0120-788-222までお電話でお申し込みください。
* 利用前日17:00まで受付可能(12:00~13:00を除く、土日祝休)
* 申込方法など詳細は当館ホームページでご確認ください。

◎視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップのスタッフとともに
障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、言葉
を交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップです。
日時: 2019年12月15日(日)、2020年1月11日(土)

10:30-13:00
対象: どなたでもご参加いただけます。
定員: 各日7名
事前申込制、先着順。応募者多数の場合は抽選
参加費: 500円
* 申込方法など詳細は当館ホームページでご確認ください。

◎対話型作品鑑賞会

参加者で対話を交えながら作品を鑑賞します。(作品解説では
ありません)
日時: 2019年12月5日(木)、12月26日(木)、
2020年1月9日(木) 18:30より
本展チケット(当日消印)をご持参のうえ、2階展示室入口にお
集まりください。

* 事業はやむを得ない事情で変更することがございます。あらかじめ
ご了承ください。

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062
東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内
TEL 03-3280-0099
www.topmuseum.jp



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。
当館には駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。